

# 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

大台町教育委員会  
平成27年10月

本年4月に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が、8月25日に文部科学省から公表されました。

調査結果や本町における児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果、今後の取組を以下のとおりまとめました。

なお、調査結果の取扱いについては、文部科学省が示す実施要領における「(5) 調査結果の取扱いに関する配慮事項等」をご覧ください。

## 1 教科に関する調査の結果・分析

※結果の分析は、平均正答率が全国平均正答率と比較し、5%以上のものを「強み」と捉え、5%以下のものを「弱み」として捉え記述しました。全国と比べて理解されているかどうかという観点で記述しました。

### (1) 本町における特徴的な傾向

#### <小学校国語A>

##### ○強み

- ・問題4：説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する  
平均正答率：92.6%（全国：86.0%）  
→具体的な事例を挙げて説明する文章を書くことができます。
- ・問題5一：コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する  
平均正答率：75.0%（全国：59.5%）  
→新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える問題で、読書体験が書いてある問題については捉えることができます。

##### ○弱み

- ・問題2一：文の主語として適切なものを選択する  
平均正答率：39.7%（全国：53.1%）  
→文中の主語を捉えることに課題があります。
- ・問題5二：コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く  
平均正答率：11.8%（全国：19.8%）  
→新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えるのに、筆者が引用している言葉を捉えることに課題があります。

## ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域及び評価の観点から見て、「書くこと」に関しては全国と比較して力がついています。
- ② 学習指導要領の領域及び評価の観点から見て、「話す・聞くこと」については課題があります。「話す・聞く能力」については、今後伸ばして行かなければなりません。
- ③ 国語A問題は、全国平均よりやや低い状況です。

## <小学校国語B>

### ○強み

- ・問題1二：見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する  
平均正答率：76.5%（全国：70.8%）  
→目的や意図に応じ、記事に見出しをつけることができます。
- ・問題3一：<絵3>の場面が始まるまとまりとして適切なものを選択する  
平均正答率：66.2%（全国：60.4%）  
→登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えることができている児童が全国より多くいます。
- ・問題3二：声に出して読むときの工夫とその理由を書く  
平均正答率：76.5%（全国：66.6%）  
→登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読するときの工夫や理由を書くことができます。

## ■全体の傾向から見られる課題

- ① 学習指導要領の領域や評価の観点からみて、「書くこと」「読むこと」あるいはその能力ともに全国よりも高い数値を示しています。力がついてきていると判断することができます。

## <小学校算数A>

### ○強み

- ・問題1（1）：8.9 - 0.78の差の概算の結果として、ふさわしい数値を選ぶ  
平均正答率：80.9%（全国：71.0%）  
→小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができます。
- ・問題1（2）：5.21 + 0.7は0.01が何個集まった数かを表すための式として、ふさわしい数値の組み合わせを書く  
平均正答率：80.9%（全国：74.3%）  
→単位となる小数の幾つ分で、小数の大きさを表すことができます。

- ・問題 1 (3) : 小数の加法の結果を、減法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く

平均正答率 : 88.2% (全国 : 82.0%)

→加法における計算の確かめの方法が理解されています。

- ・問題 2 (4) :  $6 \div 5 \div 7$  を計算する

平均正答率 : 89.7% (全国 : 84.2%)

→除数が整数である場合の分数の除法の計算をすることができます。

- ・問題 5 (1) : 円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶ

平均正答率 : 57.4% (全国 : 50.6%)

→示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を、選択することができます。している児童が全国より多くいます。

### ○弱み

- ・問題 7 : ハンカチを 5 日間持ってきた人数が、学年全体の人数の半分より少ない学年は、4 年生だけであることを示しているグラフを選ぶ

平均正答率 : 75.0% (全国 : 81.8%)

→グラフに表されている事柄を読み取ることがある程度できていますが、全国よりはやや低いところが弱みです。

### ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域から見て、「数と計算」「図形」に関しては全国平均と比べても高く力がついています。「数量関係」については正答率が 80% 以上ありますが、全国平均に比べやや低く力をつけていく必要があります。
- ② 評価の観点から見て、「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」とも、全国平均より高く、算数 A については力がついていると言えます。

### <小学校算数 B>

#### ○強み

- ・問題 1 (3) : 二組の道のりが、それぞれ等しくなることを書く

平均正答率 : 36.8% (全国 : 27.7%)

→示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を記述することができます。している児童が全国より多くいます。

- ・問題 2 (3) : 示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを見だし、正しい求め方と答えを書く

平均正答率 : 60.3% (全国 : 51.0%)

→示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述することができている児童が全国より多くいます。

- ・問題5（2）：示された図形の色がついた部分の面積を求める

平均正答率：54.4%（全国：47.8%）

→条件を変更した場面に面積を2等分する考えを適用して、示された部分の面積を求めることができていない児童が全国より多くいます。

## ○弱み

- ・問題1（2）：作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ

平均正答率：47.1%（全国：54.6%）

→平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質の理解に課題があります。

- ・問題2（2）：20%増量した商品の内容量が480mlであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く

平均正答率：7.4%（全国：13.1%）

→示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることに課題があります。

## ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 数学Bは、学習指導要領の領域から「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」とも、全国平均より高い数値を示しているところから応用力をつけることはできていると見ることができます。
- ② 算数B問題については、全国平均正答率は45.0%であり、ここで強みとしてあげるのは難しいところがありますが、平均正答率から見ると全国と比べても高い数値を示しているところから、力はついていると捉えることはできます。

## <小学校理科>

### ○強み

- ・問題1（5）イ：電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる導線の巻き方や乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶ

平均正答率：73.5%（全国：66.2%）

→電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善することができています。

- ・問題2（5）：インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適した栽培場所を選び、選んだわけを書く

平均正答率：52.9%（全国：44.2%）

→植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述することができている児童が全国より多くいます。

- ・問題3（2）：水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ

平均正答率：66.2%（全国：54.0%）

→予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想することができている児童が全国より多くいます。

- ・問題3（4）：示された器具（メスシリンダー）の名称を書く

平均正答率：86.8%（全国：70.7%）

→メスシリンダーの名称が理解されています。

- ・問題4（2）：夕方にみられる月の形と場所を選ぶ

平均正答率：63.2%（全国：56.1%）

→月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることが理解できている児童が全国より多くいます。

- ・問題4（3）：星座の動きを捉えるために必要な記載事項を選ぶ

平均正答率：61.8%（全国：55.3%）

→星座の動きを捉えるための適切な記録方法を身につけている児童が全国より多くいます。

- ・問題4（5）：水が水蒸気になる現象について、その名称を書く

平均正答率：66.2%（全国：58.5%）

→水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解することができている児童が全国より多くいます。

## ○弱み

- ・問題2（1）：メダカのおすとめすを見分けるための観察する部分を選ぶ

平均正答率：63.2%（全国：78.0%）

→メダカの雌雄を見分ける方法が理解するのに課題があります。

- ・問題3（5）：メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ

平均正答率：44.1%（全国：51.7%）

→メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を身につけることに課題があります。

## ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 理科の結果を「枠組み」から見ると、「主として『知識』に関する問題」も「主として『活用』に関する問題」も全国平均より高く、また、評価の観点から見ても、「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」とも全国平均を上回っていることもあり、力はあると捉えることができます。
- ② 学習指導要領の区分から見ると、「生命」の部分がやや低く、もう一度押さえておく必要があります。

## <中学校国語A>

### ○強み

- ・問題3一：用いられている表現の工夫として適切なものを選択する  
平均正答率：68.5%（全国：58.3%）  
→表現の技法について理解できている生徒が全国より多くいます。
- ・問題9三オ：適切な語句を選択する（たなびく雲の間から、春の光がもれている）  
平均正答率：57.5%（全国：49.0%）  
→語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができている生徒が全国より多くいます。

### ○弱み

- ・問題8二：意図にあった質問として適切なものを選択する  
平均正答率：65.8%（全国：76.1%）  
→必要に応じて質問しながら聞き取る問題で、適切なものを選択することができていない生徒が全国より多くいます。
- ・問題9一2：漢字を書く（地図のシュクシャクを調べる）  
平均正答率：60.3%（全国：72.1%）  
→「シュクシャク」という漢字だけが正しく書けた生徒が少なく、漢字が正しく理解されていません。
- ・問題9三イ：適切な語句を選択する（彼がこの討論の口火を切った）  
平均正答率：47.9%（全国：55.5%）
- ・問題9三エ：適切な語句を選択する（彼女は、学級の縁の下の力持ちと言える存在だ）  
平均正答率：50.7%（全国：70.8%）  
→語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題で、意味が理解されていないため適切に使うことに課題がある生徒が全国より多くいます。

### ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域や評価の観点から見て、「読むこと」「読む能力」に関しては力がついています。しかし、「話す・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では全国平均をやや下回っています。
- ② 「話す・聞くこと」については、特に力を入れていく必要があります。

## <中学校国語B>

### ○弱み

- ・問題2三：資料を参考にして2020年の日本社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く  
平均正答率：16.4%（全国：23.0%）

→複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことに課題があります。

- ・問題 3 三：文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く

平均正答率：16.4%（全国：31.1%）

→文章の構成や展開などを踏まえて、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題があります。

#### ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域の3領域のうち、「書くこと」「読むこと」について全国平均までの力がついていないことがわかりました。今後、書く力・読む力をつけていかなければなりません。
- ② 学習指導要領の残りの「話すこと・聞くこと」についても全国平均をやや下回っています。

#### <中学校数学A>

##### ○強み

- ・問題 1 (2)： $12 - 2 \times (-6)$  を計算する

平均正答率：89.0%（全国：83.7%）

→加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算することができています。

- ・問題 2 (1)： $5x - x$  を計算する

平均正答率：91.8%（全国：85.3%）

→一次式の減法の計算ができています。

- ・問題 2 (3)：等式  $2x - y = 5$  を  $y$  について解く

平均正答率：75.3%（全国：64.2%）

→等式を目的に応じて変形することができている生徒が全国より多くいます。

- ・問題 3 (2)：一元一次方程式  $1.2x - 6 = 0.5x + 1$  を解く。

平均正答率：82.2%（全国：73.8%）

→小数を含む一元一次方程式を解くことができています。

- ・問題 6 (1)：同位角の位置にある角について正しい記述を選ぶ

平均正答率：90.4%（全国：80.3%）

→同位角の意味が理解できています。

- ・問題 12 (2)：時間と道のりの関係を表すグラフを基に、出発してから15分後にいる地点までの家からの道のりを求める

平均正答率：90.4%（全国：83.8%）

→時間と道のりの関係を表すグラフから、与えられた時間における道のりを読み取ることができています。

- ・問題 15 (2) : さいころを投げるときの確率について正しい記述を選ぶ  
平均正答率 : 61.6% (全国 : 55.4%)  
→多数回の試行の結果から得られる確率の意味が理解できている生徒が全国より多くいます。

## ○弱み

- ・問題 1 (4) : ある日の最低気温を基準にして、その前日の最低気温との差から、前日の最低気温を求める  
平均正答率 : 69.9% (全国 : 75.4%)  
→正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解することに課題のある生徒が全国より多くいます。
- ・問題 2 (2) : 赤いテープの長さが  $a$  cm で、白いテープの長さの  $3/5$  倍のとき、白いテープの長さを  $a$  を用いた式で表す  
平均正答率 : 16.4% (全国 : 22.2%)  
→数量の関係を文字式に表すのに課題があります。
- ・問題 4 (2) :  $\triangle ABC$  を、矢印の方向に 4 cm 平行移動した図形を書く  
平均正答率 : 49.3% (全国 : 54.5%)  
→平行移動した図形を書くことに課題があります。
- ・問題 5 (1) : 直方体において、与えられた辺に垂直な面を書く  
平均正答率 : 39.7% (全国 : 47.4%)  
→空間における直線と平面の垂直について理解することに課題があります。
- ・問題 8 : 対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ  
平均正答率 : 17.8% (全国 : 25.8%)  
→証明の必要性和意味を理解するのに課題があります。
- ・問題 9 :  $y$  が  $x$  の関数でない自称を選ぶ  
平均正答率 : 74.0% (全国 : 81.5%)  
→関数の意味を理解している生徒は多くいますが、全国と比較して数値が低いところに課題があります。
- ・問題 11 : 一次関数の表から、 $x$  と  $y$  の関係を表した式を選ぶ  
平均正答率 : 57.5% (全国 : 64.7%)  
→一次関数の表から、 $x$  と  $y$  の関係を式で表すことに課題のある生徒が全国より多くいます。
- ・問題 13 : 二元一次方程式  $x+y=3$  の解を座標とする点の集合として正しいものを選ぶ  
平均正答率 : 30.1% (全国 : 37.9%)  
→二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることを理解するのに課題があります。

- ・問題 1 4 (1) : 反復横とびの記録の中央値を求める

平均正答率 : 35.6% (全国 : 46.0%)

→与えられた資料から中央値を求めることに課題があります。

#### ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域から見て、「数と式」については全国平均より高く、力がついています。「図形」「関数」「資料の活用」については、もう少し理解度を高める必要があります。
- ② 評価の観点からみると、「数学的な技能」については全国レベルにあります。「数量や図形などについての知識・理解」については、やや弱く、理解を深める必要があります。
- ③ 数学 A に関して、ほぼ全国平均並みの力を持っています。

#### <中学校数学 B>

##### ○強み

- ・問題 5 (3) : 記名のある落とし物を 1 個 1 点、ない落とし物を 1 個 2 点として集計するとき、表彰する学級の決め方として正しい記述を選ぶ

平均正答率 : 74.0% (全国 : 67.3%)

→振り返って立てられた構想に沿って、事象を数学的に表現し、その意味を解釈することができている生徒が全国より多くいます。

##### ○弱み

- ・問題 1 (2) : 投映画面がスクリーンに収まり、できるだけ大きく映し出すことができる投映距離を選ぶ

平均正答率 : 27.4% (全国 : 35.1%)

→必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することに課題があります。

- ・問題 5 (2) : 2 回目の調査の方が落とし物の状況がよくなったとは言い切れないと主張することもできる理由を、グラフを基に説明する

平均正答率 : 16.4% (全国 : 23.3%)

→資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。

- ・問題 6 (2) : 底面になる円の半径の長さが 8 cm のとき、表や式から、側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求める方法を説明する

平均正答率 : 24.7% (全国 : 30.8%)

→与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することに課題があります。

## ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 数学Bの全国平均正答率は41.6%です。本町はほぼ同じ状況ですが、この正答率で、80%以上の生徒が正解している設問はなく、非常に難しい問題であったと言えます。全国も同様の状況を示しています。
- ② 学習指導要領の領域から見て、「数と式」について全国平均よりも高く力がついています。しかし、「図形」「関数」「資料の活用」については、もう一度押さえ直す必要があります。
- ③ 評価の観点からみて、「数学的な技能」については力がついています。

## <中学校理科>

### ○強み

- ・問題1(1)化学式：塩化ナトリウムの化学式を選ぶ  
平均正答率：84.9% (全国：79.6%)  
→塩化ナトリウムを化学式で表すことはできています。
- ・問題1(1)濃度：濃度5%の塩化ナトリウム水溶液100gをつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める  
平均正答率：52.1% (全国：45.0%)  
→特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求めることができている生徒が全国より多くいます。
- ・問題2(1)：天気図から風力を読み取る  
平均正答率：87.7% (全国：77.9%)  
→天気の記号から風力を読み取ることができています。
- ・問題2(2)：天気図から風向を読み取り、その風向を示している風向計を選ぶ  
平均正答率：57.5% (全国：48.6%)  
→天気の記号から風向を読み取り、風向計を使って風向を観測することができる生徒が全国より多くいます。
- ・問題3(1)：13時から16時の四つの気象観測の記録から、最も高い温度を選ぶ  
平均正答率：46.6% (全国：36.5%)  
→露点を測定する場面において、最も高い温度の時刻を指摘することができる生徒が全国より多くいます。
- ・問題6(2)：音の高さは、空気の部分の長さに関係しているという仮説が正しい場合に得られる結果を予想して選ぶ  
平均正答率：35.6% (全国：29.9%)  
→音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画することができる生徒が全国より多くいます。
- ・問題7(1)：消化酵素によって、デンプンが最終的に分解された物質の名称を選ぶ  
平均正答率：78.1% (全国：72.2%)  
→デンプンが消化酵素によって分解されて、最終的にできる物質の名称を表すことができる生徒が全国より多くいます。

## ○弱み

- ・問題 1 (6) : 他者の考えを検討して改善し、炭酸水素ナトリウムとクエン酸の混合物を加熱したときの化学変化の説明として最も適切なものを選ぶ  
平均正答率 : 49.3% (全国 : 57.7%)  
→他者の考えを検討して改善し、混合物を加熱したときの化学変化を説明するのに課題があります。
- ・問題 4 (1) : 実験の結果から、凸レンズによる実像ができるときの、像の位置や大きさについて適切な説明を選ぶ  
平均正答率 : 38.4% (全国 : 43.7%)  
→凸レンズによってできる像を調べる実験の結果を分析して解釈し、規則性を指摘することに課題があります。
- ・問題 6 (1) : 音の波形を比較し、音の高さが高くなった根拠として、正しいものを選ぶ  
平均正答率 : 30.1% (全国 : 40.1%)  
→日常生活の場面において、音の高さが高くなったといえる音の波形の特徴を指摘することに課題があります。
- ・問題 7 (3) : キウイフルーツの上に置いたゼリーの崩れ方に違いが見られたという新たな疑問から、適切な課題を記述する  
平均正答率 : 47.9% (全国 : 57.3%)  
→見いだした問題を基に、適切な課題を設定することに課題があります。
- ・問題 8 (1) : 背骨のある動物の名称を答える  
平均正答率 : 56.2% (全国 : 63.9%)  
→背骨のある動物を、セキツイ動物と表すことに課題のある生徒が全国より多くいます。
- ・問題 8 (2) : えらぶたの開閉回数の平均値を求める理由として適切なものを選ぶ  
平均正答率 : 35.6% (全国 : 55.7%)  
→平均値を求める場合において、平均値を求める理由を説明することに課題があります。

## ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 理科の枠組みから、主として「知識」に関する問題は全国平均正答率よりも高く力がついていると言えます。しかし、主として「活用」に関する問題はやや低く、今後改善していかなければなりません。
- ② 学習指導要領の分野別に見ると、第1分野の「科学的領域」と第2分野の「地学的領域」は力がついています。第1分野の「物理的領域」と第2分野の「生物的領域」については、理解を深めさせる必要があります。
- ③ 評価の観点から見ると、「科学的な思考・表現」については、全国よりやや低く、活用力をつけることによって改善を図る部分です。「観察・実験の技能」「自然減事象についての知識・理解」については、力がついています。特に「実験・観察の技能」は高く、日頃の実験に対する取組がよいことの表れと判断することができます。

## 2 質問紙調査（児童生徒用・学校用）に関する調査の結果・分析

### （1）大台町として重視したい項目

#### 【児童・生徒質問紙】

◇項目①：授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されたと思いますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 80.9%（三重県71.0%、全国74.2%） 全国比+ 6.7
- ・生徒 86.3%（三重県75.5%、全国79.7%） 全国比+ 6.6

◇項目②：授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 79.4%（三重県71.4%、全国75.3%） 全国比+ 4.1
- ・生徒 64.4%（三重県58.3%、全国59.3%） 全国比+ 5.1

#### 【学校質問紙】

◇項目③：授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか。

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県97.8%、全国98.1%） 全国比+ 1.9
- ・中学校 100.0%（三重県87.6%、全国95.7%） 全国比+ 4.3

◇項目④：授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県97.8%、全国98.1%） 全国比+ 1.9
- ・中学校 100.0%（三重県87.5%、全国90.9%） 全国比+ 9.1

◇項目⑤：平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。

（「よく行った」「行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県98.1%、全国95.8%） 全国比+ 4.2
- ・中学校 100.0%（三重県94.4%、全国93.2%） 全国比+ 6.8

◆児童・生徒とも、授業はじめの目標提示や、授業最後の振り返り活動について、全国よりも行っていると捉えています。学校は、小学校が4校、中学校が2校なので1校の違いで数値は大きくなります。しかし、本年度は全小中学校が、目標の提示や振り返り活動は行っていると答えています。授業研究等によって、目標提示や振り返り活動の大切さを意識して進めていった結果の表れてと考えられます。

◆平成26年度の問題は、全小中学校で活用するようになっていきます。「よく行った」という学校はありませんが、「行った」と全小中学校が答えていますので、必要に応じて活用しているものと考えます。

## 【児童・生徒質問紙】

◇項目⑥：今住んでいる地域の行事に参加していますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 83.8%（三重県72.0%、全国66.9%） 全国比+16.9
- ・生徒 79.5%（三重県50.7%、全国44.8%） 全国比+34.7

◆多くの児童・生徒が地域の行事に参加していると答えています。全国と比較しても高い数値を示しています。特に中学生は、昨年度より11.8%の伸びを示しており、中学生が率先して地域の行事等に参加している姿が浮かんできます。

過疎地である大台町では、子どもたちが地域の良さ、地域の人々の温かさに触れ、地域に愛着を持つ活動が大切であり、またそのための活動を各学校で取り組んでいます。その結果の表れと考えられます。今後も地域に根ざした取り組みを進めていきます。

◇項目⑦：普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。

（「3時間以上」と回答した割合）

- ・児童 38.2%（三重県35.8%、全国36.1%） 全国比+ 2.1
- ・生徒 28.8%（三重県32.4%、全国30.5%） 全国比- 1.7

◇項目⑧：普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。

（「3時間以上」と回答した割合）

- ・児童 25.0%（三重県18.2%、全国17.0%） 全国比+ 8.0
- ・生徒 15.1%（三重県22.9%、全国20.5%） 全国比- 5.4

◇項目⑨：普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。

（「2時間以上」と回答した割合）

- ・児童 7.3%（三重県10.4%、全国 9.8%） 全国比- 2.5
- ・生徒 30.1%（三重県35.6%、全国31.3%） 全国比- 1.2

### ※参考

携帯電話やスマートフォンを持っていない児童・生徒

- ・児童 50.0%（三重県43.2%、全国42.0%） 全国比+ 8.0
- ・生徒 23.3%（三重県17.1%、全国21.4%） 全国比+ 1.9

◆テレビやビデオ・DVDの視聴は、全国と比較して児童はやや高く、生徒はやや低くなっています。昨年に比べて、テレビやビデオ・DVDの視聴は下がっています。しかし、テレビゲームに関しては、小学生が全国と比較して8ポイントも数値が高く、昨年に比べて小学生のゲームに没頭する時間は多くなっています。

◆携帯電話やスマートフォンの使用については、全国と比べてやや低い数値を示しています。しかし、昨年度に比べると、2時間以上使用する児童・生徒の率はともに伸びています。参考に示した携帯電話やスマートフォンを持っていない児童や生徒は、小学生で持っていない児童が3.4%増え、中学生では5.9%減ったという結果が出ています。中学生で、携帯電話やスマートフォンを持つ人が増えるという傾向にあります。

◇項目⑩：本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館にどれくらい行きますか。

（「月1回以上行く」と回答した割合）

・児童	39.7%	（三重県40.0%、全国40.7%）	全国比－	1.0
・生徒	38.3%	（三重県17.4%、全国19.6%）	全国比＋	18.7

◆読書活動のための学校図書館・室等の活用については、全国平均と比較すると児童ではやや低く、生徒では高くなっています。読書活動には、どの学校も取り組み「朝の読書活動」を行っています。現在、小学校において学校図書室のリニューアルを、大台町立図書館と協力して進めています。26年度に三瀬谷小学校の図書室をリニューアルしました。子どもたちが、気持ちよく読書できる体制をつくっていきたいと考えています。また、図書館司書の学校へ出かける時間の増加を図って行きたいと考えています。

## （2）「みえの学力向上県民運動」の成果・取組指標に関連する項目

【児童・生徒質問紙】

◇項目①：難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

・児童	80.8%	（三重県76.6%、全国76.4%）	全国比＋	4.4
・生徒	76.7%	（三重県69.7%、全国68.8%）	全国比＋	7.9

◇項目②：将来の夢や目標を持っていますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

・児童	86.8%	（三重県85.3%、全国86.5%）	全国比＋	0.3
・生徒	71.2%	（三重県71.7%、全国71.7%）	全国比－	0.5

◆「失敗を恐れずに挑戦すること」には、児童・生徒とともに全国平均を上回っています。昨年度は、全国平均よりやや低い数値を示していましたが、本年度の児童・生徒は意欲的と言えます。「将来の夢や目標を持っているか」という問いには、児童・生徒とも、ほぼ全国平均並みの数値を示しています。夢や目標をもって取り組むことの大切さは、今後とも児童・生徒に伝えていかなければならないことです。

◇項目③：朝食を毎日食べていますか。

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

- ・児童 94.2%（三重県95.3%、全国95.6%） 全国比－ 1.4
- ・生徒 94.5%（三重県93.1%、全国93.5%） 全国比＋ 1.0

◇項目④：毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

- ・児童 83.8%（三重県79.0%、全国79.5%） 全国比＋ 4.3
- ・生徒 86.3%（三重県75.3%、全国75.2%） 全国比＋ 11.1

◇項目⑤：毎日同じくらいの時刻に起きていますか。

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

- ・児童 97.0%（三重県90.7%、全国91.0%） 全国比＋ 6.0
- ・生徒 97.3%（三重県91.9%、全国92.1%） 全国比＋ 5.2

◆「朝食を食べているか」という問いに対して、本年度は児童が全国平均よりやや低い傾向を示していますが、94%強の児童・生徒が食べている状況にあります。「寝る時間・起きる時間」については、児童・生徒とともに全国平均を上回っています。いずれにせよ、本町の児童・生徒の多くは、健全な生活をしていることが伺えます。

◇項目⑥：家で、自分で計画を立てて勉強していますか。

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

- ・児童 55.9%（三重県60.5%、全国62.8%） 全国比－ 6.9
- ・生徒 65.8%（三重県51.0%、全国48.8%） 全国比＋ 17.0

◇項目⑦：家で、学校の宿題をしていますか。

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

- ・児童 98.5%（三重県97.3%、全国96.8%） 全国比＋ 1.7
- ・生徒 95.9%（三重県90.8%、全国89.3%） 全国比＋ 6.6

◇項目⑧：家で、学校の授業の予習をしていますか。

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

- ・児童 32.4%（三重県42.0%、全国43.4%） 全国比－ 11.0
- ・生徒 49.3%（三重県37.4%、全国35.3%） 全国比＋ 14.0

◇項目⑨：家で、学校の授業の復習をしていますか。

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

- ・児童 50.0%（三重県50.1%、全国54.5%） 全国比－ 4.5
- ・生徒 60.3%（三重県48.9%、全国52.0%） 全国比＋ 8.3

◆家庭での学習についての質問で、児童は「家で、学校の宿題」をしているだけが全国平均をやや上回っているだけで、他の3項目については全国平均を下回っています。中学生は、4項目とも全国平均より高い数値を示し、宿題も予習復習もともにこなしている生徒が多いことがわかります。この数値と、学力検査の結果が反対になっているところに不思議さを感じます。家庭での取組が直接学力に結びつくものでないのか、あるいは家庭学習の方法が悪いのか。他に要因があるのか、精査する必要があるのではないかという結果です。家庭学習については、家庭と連携し家庭学習のあり方を見直す必要があるのか検討しなくてはならないと考えます。

### (3) 三重県全体として特徴が見られた項目

◇項目①：学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。

(「1時間以上」と回答した割合)

- ・児童 52.9% (三重県58.4%、全国62.7%) 全国比－ 9.8
- ・生徒 76.7% (三重県66.5%、全国69.0%) 全国比＋ 7.7

◇項目②：学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。

(「3時間以上」と回答した割合)

- ・児童 16.2% (三重県18.5%、全国24.5%) 全国比－ 8.3
- ・生徒 39.7% (三重県32.7%、全国41.7%) 全国比－ 2.0

◆勉強時間は、平日では1時間以上している児童は少なく、逆に生徒は全国平均に比べて高く、4人に3人は1時間以上毎日勉強しています。休日の勉強については、昨年度に比べ、児童は7.1ポイント、生徒は30.5ポイント増えています。しかし、全国的に3時間以上勉強している児童生徒が増え、比較しても少し低い数値を示しています。いずれにしても、勉強時間と学力との相関はどうかと考えざるを得ない状況が見られます。

◇項目③：家の人は、授業参観や運動会などの学校行事にきますか。

(「よく来る」「時々来る」と回答した割合)

- ・児童 100.0% (三重県97.6%、全国96.6%) 全国比＋ 3.4
- ・生徒 90.4% (三重県78.9%、全国83.4%) 全国比＋ 7.0

◆児童は、大台町、三重県、全国とも同じような数値を示し、保護者の関心が高いことを示しています。本年度は、児童全員が「よく来る」89.7% (84.8%、81.8%)、「時々来る」10.3% (12.8%、14.8%)と答えています。生徒についても、「よく来る」71.2% (43.6%、50.0%)と高い数値を示しています。学校では、地域や家庭との連携をはかり、保護者の方に学校に来ていただく行事等を行っているので、保護者の方の関心は高く、それを児童・生徒もきちんと把握しているものと思われます。今後も、家庭・地域と連携した取り組みを推進していかなければなりません。

◇項目④：いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 95.6%（三重県96.5%、全国96.2%） 全国比－ 0.6
- ・生徒100.0%（三重県93.9%、全国93.7%） 全国比＋ 6.3

◆本町の児童は、「当てはまる」82.4%（83.1%、81.8%）「どちらかといえば当てはまる」13.2%（13.4%、14.4%）となっています。生徒は、「当てはまる」87.7%（73.3%、73.0%）、「どちらかといえば当てはまる」12.3%（20.6%、20.7%）となっています。中学生全員が、いじめはいけないことだと考えているのに対して、小学生ではわずか4.4%ではありますが、いじめはいけないことだと思っていないことを示しています。この4.4%の児童と、「どちらかといえば当てはまる」と答えている児童・生徒に対して、何があっても「いじめ」は「悪い」ことだと答えられる子どもを育てて行かなくてはなりません。今後も、人権教育等に取り組み、心の豊かな児童・生徒の育成に努めて参ります。

◇項目⑤：「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことなどを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 64.7%（三重県54.5%、全国65.8%） 全国比－ 1.1
- ・生徒 75.3%（三重県48.9%、全国58.0%） 全国比＋17.3

◆本町では、小中学校とも児童・生徒が課題設定し、情報収集からまとめ、発表という活動を比較的多く取り入れています。考える力や自ら取り組む積極性を養う上で、効果を発揮する取り組みです。小学校は全国平均並みですが、中学校においては全国平均と比べ高い数値を示しています。多くの生徒が、「総合的な学習の時間」の本来のねらいである、自ら調べ、まとめ、発表する取り組みを行っていると捉えています。子どもたちが自ら取り組む学習が、「総合的な学習の時間」の本来の目的です。この取り組みと本町が抱える「郷土を愛する、郷土を誇りに思う」子どもの育成とをマッチさせたような取り組みができないか考えていきたと思います。

◇項目⑥：国語の授業で目的に応じて読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 57.4%（三重県60.3%、全国65.2%） 全国比－ 7.8
- ・生徒 69.8%（三重県55.1%、全国59.2%） 全国比＋10.6

◆小学校で大きく全国平均を下回っています。学校質問紙で、小学校は「よく行っている」と答えていますが、教師側と子どもの側ではとらえ方が違うのかと思うところです。中学校では、逆に全国平均を大きく上回り、自分の考えを話したり、書いたりす

る取り組みを行っている」と答えています。自分の考えを持つこと、考えをまとめる活動は大切です。国語教育の中で、どのような取り組みをしていかなければならないかを、学力向上推進委員会等で検討していきたいと思えます。

### 3 大台町におけるこれまでの取り組みと成果と課題

#### 【取り組み】

- 学力向上推進委員会における、C R T（学力標準検査）の分析結果や学力向上の取り組みの交流。
- 大台町小中学校連携教育推事業の中で、学力向上推進委員会主催による全体研修会の開催
- 多気郡学力向上推進会議における講師を招聘しての講演会の開催と実践交流。
- 多気郡指導室指導主事等による学校訪問と授業研究・事後検討会における指導・助言。
- 大台町教育委員会によるI C T研修（電子黒板活用等）の実施。

#### 【成果と課題】

- 小学校は国語Aはほぼ全国平均に近い数値を示しています。国語B、算数A・B及び理科に関しては全国平均より高い数値を示しています。中学校は国語Bは、全国平均より低い数値を示しています。国語Aと数学Bは、全国平均よりやや低い数値を示し、数学Aと理科はほぼ全国平均並みの数値を示しています。
- 無回答率が、全国に比べて低くなっています。
  - ・小国…大台町 3. 2%（三重県 4. 7%、全国 4. 9%）
  - ・小算…大台町 3. 4%（三重県 5. 7%、全国 5. 5%）
  - ・中国…大台町 2. 1%（三重県 2. 4%、全国 2. 4%）
  - ・中数…大台町 8. 6%（三重県 9. 1%、全国 9. 5%）小中学校とも無回答率が低くなっています。学校において、最後までがんばるように取り組んでいる成果が現れているものと思われます。
- ◆各校で全国学力・学習状況調査を、教育活動改善のためにどのように活用していくか研修を進める必要があります。

### 4 児童生徒の学びの充実を図るための今後の取組

#### 【取り組み】

- 学力向上推進委員会において、全国学力・学習状況調査の分析結果や学力向上の取り組みの交流を継続します。
- 全国学力・学習状況調査を教育活動改善のために活用するよう指導します。
- 「目標を示す」「振り返り活動を行う」ことを重視した授業づくりを進めます。
- 各学年段階で、学習指導要領に基づいた学力が育成できているかを検証する手立ての見直しを行い、より有効なものにしていきます。